

宮崎県市町村・地域づくり団体協働モデル事業

海とのふれあいライフスキル 充実事業

I' LL BE
(宮崎市)

海とのふれあいライフスキル充実事業

1. 【団体の概要】

私たち I'LLBE は、子育てに不安を抱える保護者の方や障がいをもつ子どもたちとその保護者が集まり、お互いの悩みなどをテーマとした意見交換を定期的に行ってきた。その話し合いの中で、それぞれの活動状況や体験談等を通して、また相談内容を聞かされることにより地域で楽しく暮らしていくことの大変さや不安を強く感じた。

こうした不安の中で、子どもたちの将来の生活や社会的自立を考えたときに、余暇を持つことで仕事や日常の生活を頑張れるという意欲が湧いてくるのではないかと考えた。

これまで、不登校の子どもの場合、頑張って学校に行くというモチベーションとなるような楽しめる余暇を持たせることで、将来の生活をイメージすることができるように様々な活動を行ってきた。そしてさらに、同じような悩みを持つ保護者や子ども・支援者が集まり、安心して生活できる地域社会にするために、特定非営利活動法人を設立した。

そして、実際の活動については、宮崎ならではの大自然「海」を活用することを考え、中心メンバーはプロの資格をもつダイバーと福祉関係者で構成し、海とのふれあいを通して子どもたちに余暇を感じ取ってもらえるような活動に取り組んでいる。

2. 【事業の目的、ねらい】

普段、身近にある宮崎の海。この大切な資源を通して子どもたちにできることはないかと考え、これまでのダイビング経験を生かし子どもたちにも体験させる事業を企画した。

ダイビング体験を通して、海に浮く特別な体感や海中に潜る快適さ、目に映る島の景色や魚たちの泳ぎ、潜水中の泡やその音など、今までにない経験によって五感が刺激され、また潜ってみたいと思う子どもたちにとっての余暇活動の一つとして定着し、そして海を通じてさまざまな人との出会いなどがプラス要素として心を動かし、日常生活における前向きな生き方につながることを期待する。

また、イベントにあわせて親の不安解消のための専門講師による相談会や講演会も同時に開催する。そして、この事業の趣旨や成果を情報発信し関係する団体との交流や連携に結びつけ啓発活動を行うとともに、海をテーマとした新たな地域資源としての活用を図っていく。

3. 【活動内容】

令和元年 7月 15日

○大堂津港周辺のビーチクリーン活動

○海をテーマとした勉強会

海の楽しさ、豊かさ、大切さについて児童を中心に学ぶ

令和元年 8月 23日、24日

○体験ダイビング及びシュノーケリング

障がいの程度や特性に応じスタッフが付添い、シュノーケリングや体験ダイビングを行う。

《手段》

当法人を中心とし、プロダイバー、福祉従事者、地域各団体と連携を図りながら実施。地域資源を活かした新たな活動として、多くの地域住民にも参加してもらうよう啓発や広報をする。

《対象者》

地域における障がい児（不登校児）とその家族を対象として、関係者を中心に行う。（対象は6歳～20歳）

4. 【事業の成果、効果】

○ビーチクリーン活動及び勉強会

「ブルーサンタ」という海の日に行うビーチクリーンイベントと同じ日に行うことで、地域との連携を図り、社会活動として貢献することができた。また、児童、保護者、スタッフ一緒にごみ拾いを行うことで身近な海の大切さを学ぶことができた。



皆で清掃活動
集合写真



その後の勉強会では海の生き物について学び、海をきれいにすることがいかに大切なことか再確認できた。



当日の海での体験に向けて事前に子どもたちの保護者からアンケートを実施し、その子に合った接し方やチーム編成、それぞれの注意するところをプロダイバーと福祉のメンバーと話し合いを重ねた。



○体験ダイビング及びシュノーケリング

事前の準備、練習等により参加した全児童が海での体験をすることができた。当日は潜る組を3組に分けることで、よりスタッフとの連携や潜れる時間の増加を図ることができた。そのかいもあり想定していた以上に潜ることができていた。

その結果、それぞれの児童の「できた」という達成感や自信、「面白い、楽しい」といった気持ち、「もっと潜りたい、あの魚はなに？」という好奇心や向上心を養うこととなった。自分で体感することでより海（自然）に対する興味や関心を持ってもらうことができた。

その傍ら、保護者の方にはその時間で相談会を実施し、保護者の困り事や悩みについて相談する場を提供することができた。そして、多くのボランティアに参加してもらうことで、啓発活動や地域資源活用になり、大きなつながりを得る機会となった。参加した児童の中には、その後プライベートでダイビングを始めた親子もいた。



スーツを着る練習



船に乗る練習

【子どもたちとスタッフがお互い一緒となり本番に臨む】



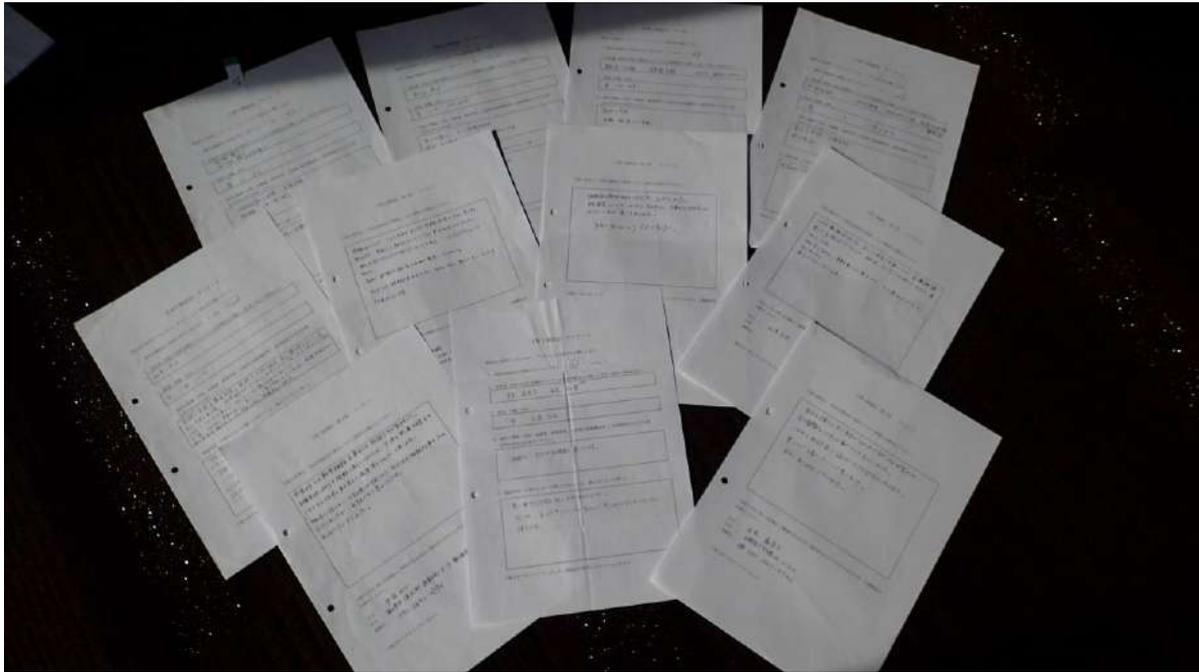
フル装備して
スタンバイ！



みんな潜る事ができました！



水面でフワフワ浮いて
呼吸の練習



体験後の保護者へのアンケートではたくさんの喜びのコメントをいただいた。「前日からドキドキして不安だったみたいで、でも楽しかったと帰ってきました。」、「ちょっと怖かったみたいですがでもまたやりたい!」、「インストラクターのお兄さんにまた会いたい」、「また次が楽しみ」といったコメントが多かった。

5. 【まとめ】

参加者数 40 人、プロのダイバーや現役の福祉関係者、専門の講師、地域ボランティアの方々の協力とそれぞれのスキルが合わさり、充実したイベントを開催することができた。

子どもたちは、初めての体験を通して、「また海で遊びたい」とワクワクして、海の中や自然に興味を示してくれた。中にはイベント後に保護者とダイビングに来てくれるほど、宮崎の海に大きな関心をもった方もいた。また、相談会や講演会を通して、保護者や地域住民の方にこの活動を知ってもらい、さらにつながりをもつことができた。当初の目標どおり、子どもたちの日常生活に大変プラスとなる体験をしてもらうことができた。

宮崎の身近にあり、大切な資源でもある海を舞台に今後もこの事業を継続し、様々な方法で発信することで、より多くの方々にこの事業を知ってもらい多くの参加につながればと考えている。普通のマリンスポーツで終わるのではなく、福祉と連携することで他にはない色々な効果が期待される新たな支援のメソッドを作っていければと思う。

そして、福祉にとらわれるだけでなく、様々な人とのつながりができるよう活動の幅をさらに広げ、海に恵まれた宮崎らしい子どもたちへの新たな支援として、宮崎から全国へこの活動を情報発信していきたいと思う。



【この活動をきっかけに石垣島で体験ダイビングをした子ども】